

# えん麦とライ麦の栽培法

(一) 冬及び早春の青刈飼料は貴重品

特に積雪期間の長い北海道、東北地方では早春一日も早く青草につけてやる事が、乳牛の健康増進と牛乳生産を高めるために必要であり、酪農家の牛に対する思イヤリともいえましよう。

耐寒性に富み秋播型のライ麦は冬期間も極めて

(a) 早播きの場合はムシロ敵寒期前に一度刈取つた方がよい。茎葉が相当に伸長し、幼穂が形成されると寒さのために枯死しやすいので

| 月別          | 7 | 8 | 9               | 10              | 11 | 12 | 1               | 2               | 3 | 4       | 5 | 6 |
|-------------|---|---|-----------------|-----------------|----|----|-----------------|-----------------|---|---------|---|---|
| 関東<br>東北(南) |   |   | ライ麦<br>△        | 1,500 町         |    |    |                 |                 |   | 2,140 町 |   |   |
| 中国          |   |   | 燕麦<br>△         | 3,000 町         |    |    |                 |                 |   | 2,250 町 |   |   |
| 九州          |   |   | (燕麦<br>ベッチ<br>△ | 1818 町<br>840 町 |    |    | 1410 町<br>737 町 | 1837 町<br>918 町 |   |         |   |   |

Figure 1 is a diagram illustrating the rice production cycle in the North China Plain. The diagram is organized into two main horizontal sections, one for the North China Plain (北海道) and one for the East China Plain (東北). Each section shows the progression of crops and the impact of the snow accumulation period.

The timeline at the top is numbered 1 to 12, representing months. The North China Plain section shows a cycle where crops like wheat and soybeans (小豆類) are sown in the early months (around month 4) and harvested later (around month 10). The East China Plain section shows a similar cycle but with a more pronounced snow accumulation period (積雪期) that occurs later in the year (around month 10 to 12).

十二月上旬頃に刈取るこ  
と（厳寒期の直前は不可）

(b) 厳寒期の二月頃の刈取りはやらないこと。

(c) 四月以降には赤錆の発生があるから、その前に刈取ること。

(d) 刈取りの高さは厚播きの場合、或いは寒冷の時には高刈り（地上一三〜一六糎）するのと。

(e) 二、三度刈りは一度刈りに比べて根の發育が悪いから施肥の回数、量を多くすること。

二、三度刈の間隔は厳寒期を避けて一応茎葉の生育日数五〇〇〜八〇日毎刈取りが、西南暖地における多収の方法であります。次に暖地の栽培期間と刈取時期を图示します。

(三) 寒冷地の早春青刈用ライ麦の栽培

東北の大部分と北海道では現在の処安定した秋播燕麦の栽培は望まれませんから、秋播き麦類という、耐寒多収なライ麦に限定されます。

ライ麦の秋播き時期は北海道の中央部についてみますと九月上旬と十月上旬、また東北の南部では十月下旬頃迄といふ非常に広い幅をもつておりますから、水田、畑の裏作に広く取入れられる余地があり、しかも春は融雪後一月半で出穂を始める、刈取適期となり、最も春早くに青刈利用出来る作物でありますから、是非とも栽培したいものです。北海道や、東北での栽培法の一例を示しますと次の通りです。